

製品名: CD276 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80893**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、ウサギ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:50-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	57kDa

抗原情報

遺伝子名	CD276
別名	B7H3; B7-H3; 4Ig-B7-H3; CD276
遺伝子 ID	80381.0
SwissProt ID	Q5ZPR3
免疫原	大腸菌で発現したヒト CD276 の精製された組み換え断片。

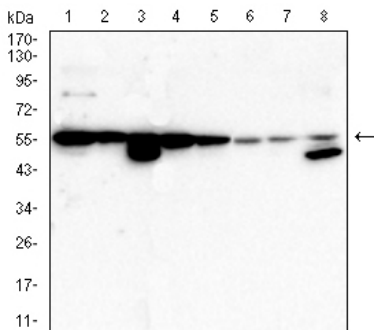
背景

共刺激性 B7 分子 (例: B7-1、CD80; MIM 112203) は、CD28 (MIM 186760) ファミリー分子 (CD28、CTLA4 (MIM 123890)、ICOS (MIM 604558) など) を介してシグナルを伝達します。T 細胞を介した免疫応答の調節に関与している可能性があります。ナチュラル

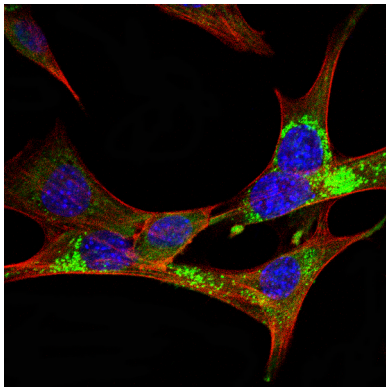
キラーを介した細胞溶解を阻害することで腫瘍細胞を保護する役割を果たすほか、神経芽細胞腫細胞の検出マーカーとしての役割を果たす可能性があります。急性および慢性の移植拒絶反応の発生や粘膜表面のリンパ球活動の調節に関与している可能性があります。また、妊娠期間を通じて胎盤と胎児に適切な免疫環境を提供する上で重要な役割を果たす可能性があります。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 はどちらも、CD4 T 細胞応答を調整する能力が重複しているようです。アイソフォーム 2 は、細胞傷害性 T 細胞の誘導を強化し、T 細胞受容体シグナル伝達の存在下でインターフェロン ガンマの産生を選択的に刺激することが示されています。

研究分野

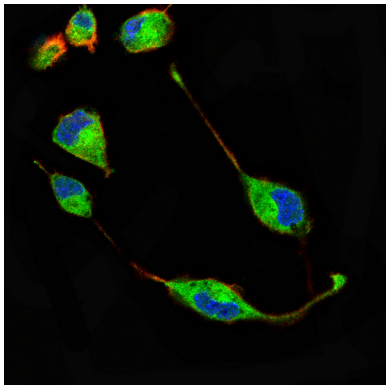
画像データ



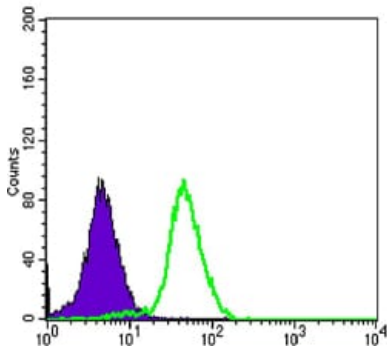
NIH/3T3(1) NRK(2) C2C12(3) C6(4) L1210(5) COS7(6) CHO3D10(7) HeLa(8)細胞溶解物に対する CD276 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



CD276 マウス mAb (緑) を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。

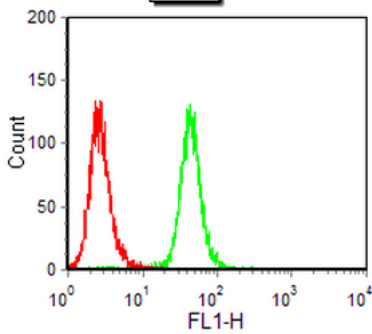


CD276 マウス mAb (緑) を用いた RSC-96 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



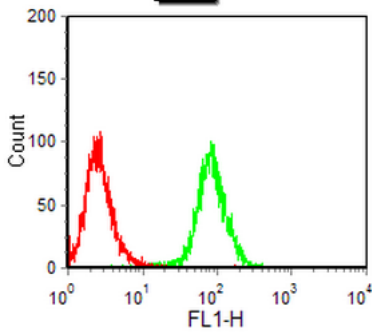
CD276 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (紫) を使用した PC-3 細胞のフローサイトメトリー分析。

c6.004

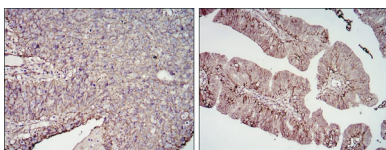


CD276 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した C6 細胞のフローサイトメトリー分析。

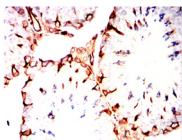
n.004



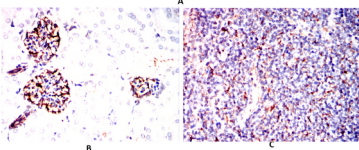
CD276 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した NIH/3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。

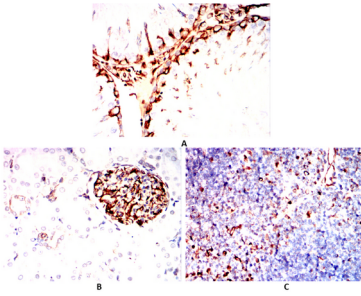


DAB 染色による CD276 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織 (左) および卵巣癌組織 (右) の免疫組織化学分析。



パラフィン包埋マウス脾臓(A)マウス腎臓(B)マウス胸腺(C)の CD276 マウス mAb と DAB 染色による免疫組織化学分析。





パラフィン包埋ラット精巣(A)ラット腎臓(B)ラット胸腺(C)のCD276 マウス mAb と DAB 染色による免疫組織化学分析。